



フジサンケイ広報フォーラム 11 月・月例会は、サイバーエージェント全社広報室マネージャーの宮原彩氏を講師にお招きし、同社のビジネス展開と事業をサポートする広報体制などについてお話いただきました。

サイバーエージェントは 1998 年 3 月 18 日(サイバーの日)にインターネット広告代理店としてスタートした。”21 世紀を代表する会社を創る”というビジョンの下、現在は広告・ゲーム・メディアという 3 つの事業を柱として展開している。

インターネット産業に軸足を置き、これに連動する分野に積極的に参入している。『ウマ娘 プリティーダービー』『グランブルーファンタジー』などのゲームアプリ開発、マッチングアプリ『タップル』や新しい未来のテレビ『ABEMA』といったメディア事業に注力している。プロレス団体や 2024 シーズンより J1 に昇格するサッカー『FC 町田ゼルビア』への支援はコンテンツ充実とスポーツ・文化・地域経済への貢献の役割も担っている。

様々な分野への進出の柱となっているのは多種多様な人材であり、チームサイバーエージェントとして活動することだ。これを支えているのが「挑戦した敗者にはセカンドチャンスを」、「迷ったら率直に言う」といった指針で、時代や環境の変化に応じて適宜見直している。我々広報部隊は各事業・経営に深くかかわり、この指針に沿った対外広報活動を展開している。

各事業部には専任の広報担当がおり事業責任者の指揮の下、広報活動を担っている。我々全社広報室は、各事業部広報部隊との連携を図るとともに、新規子会社や強化分野、M&A に伴うコミュニケーション、業界規制に対する業界団体の広報などを担当している。この他にも、働きやすい職場環境のための制度など、人事・カルチャー施策の広報も担当している。

全社広報室の具体的な使命は、「事業と経営のバリューアップ」会社のブランドや評判といった無形資産の向上だ。対外広報を通じて、企業イメージを作り、経営・事業・採用環境をよりよくしていくこと。このために、3 つの活動方針を決めている。一つは事業戦略を最重視し、広報計画を立案すること。2 つ目は自社の強みを見つけ、広報すること。3 つ目は個社だけでなく、業界全体を良い方向へもっていけるよう心掛けることなどだ。

会社の成長とともに、社会的責任が変化するなか、その存在意義を明文化したパーパスを 2021 年に制定した。「新しい力とインターネットで日本の閉塞感を打破する」というものだ。制定した背景の一つに、若手の社員による仕事を通じて社会的意義のあることを成し遂げたいという声を拾ったことにある。デジタルとクリエイティブの融合で世界に挑戦し、21 世紀型の日本的経営を体現し、日本を元気にするという思いを込めたものだ。

宮原彩 Aya Miyahara

株式会社サイバーエージェント全社広報室マネージャー

2006 年新卒入社。子会社のマイクロアドで広告の営業とマーケティングを担当した後、女性向けアバターサービスのカスタマーサポート立ち上げに従事。2011 年 4 月に出産、2012 年 4 月に仕事復帰。複数のサービスでのカスタマーサポート立ち上げ、Ameba のマーケティング部門を経て、2014 年 10 月より新設されたカルチャー推進室で社内報の編集長に。2016 年からは企業広報としてサイバーエージェントグループの広報活動に取り組み、主にマッチングアプリ「タップル」を担当。2022 年頃より当社で支援しているスポーツチームの広報活動に注力。